



2026 Race Report

2026年9月5-6日 GR86/BRZ Cup プロフェッショナルシリーズ 第5大会 富士スピードウェイ 予選**23位** 決勝**33位**

ドライとウェットが入り乱れた大会 接触ペナルティにより**33位**

T2 FACTORYは、「GR86/BRZ Cup」に参加しています。本レースの前身である「86/BRZ Race」を含み2019年のチーム開設時より参戦を継続しており、チーフエンジニアの大橋孝行が組み上げた56号車「栃木トヨタ T2FACTORY BS GR86」に社員ドライバーの鶴賀義幸が搭乗し参戦しています。加えて、毎戦ごとに各店舗からエンジニア2人がメカニックとして帯同し、活動内で整備技術を磨いています。

9月5日(土)～6日(日)に、今季第5戦が静岡県県の富士スピードウェイ(以下、富士)で開催されました。チームとしては第2戦から間を空けて2戦ぶりの参戦です。また、開幕戦の予選中にクラッシュし修理していた車両での、約5カ月ぶりの走行となりました。2日(水)から走行を開始し、車両の状態確認とコースへの習熟を行いました。練習走行枠はドライ路面が続きましたが、週末は雨の予報が出ていました。結果として本番と同一条件でのデータ取得は行えませんでした。車両挙動は多少の環境変化では崩れないほどバランスがうまく取れていたため、どのような天候にも幅広く対応できる自信をもって予選に臨むことができました。

5日(土)の予選は、天気予報がずれ込み雨上がりのほぼドライ路面で行われることになりました。直前まで空気や路面にやや湿り気が残っていましたが、コースは予選セッション前には乾きました。クラブマンクラスの予選を走行した選手が前日までの練習走行と比較してグリップ不足を訴えていたため、やや低い気温も考慮に入れ、普段は1周のみ計測するところを急遽タイヤのウォームアップ周回を追加して2周走行することを決め、状況変化への対策をしました。

当チームは、予選15分間のうち前半で走行を開始しました。2分0秒985と富士での自己ベストタイムを計測しましたが、最終コーナーで僅かなミスがあり、コンマ数秒のロスが悔やまれました。セッション後半では他車がアタックを開始し、次々と僅差の2分0秒台を記録していきました。トップ選手は2分0秒073と、9月初旬の気候に加えて最高速が180km/hで制限されるリミッター付きの車両としては驚異的に速いタイムで、それまでのレコードタイムを塗り替えました。1秒差以内に24台がつける接戦のなか、最終順位は37台中23位となりました。決勝は雨の予報で、各車の差が縮まるため追い上げに期待がかけられました。



6日(日)、決勝レースは予定通り10時に開始されました。後方23位グリッドからのスタートで、序盤から追い上げる予定でタイヤ空気圧を調整しました。スタートダッシュこそ決まりませんでした。想定通り1周目から力強い走りで順位をひとつずつ上げ、4周目には15位まで追上げました。雨量が増えてどんどん滑りやすくなるなかでもハイペースを保っていましたが、5周目に第13コーナーで他車と接触しコースアウトを喫してしまい、24位まで順位を落としてしまいました。車両は破損したものの走行できる状態で、悪くないペースを取り戻し20位に順位を上げてチェッカーフラッグを受けました。しかしながらレース後、接触により相手車両に対しコースアウトを強いたとして、レース結果に30秒を加算するペナルティの判定を受け、残念ながら結果は33位となりました。

今回の活動も、エンジニア2名が店舗から参加しました。慣れない環境下で、タイムスケジュールのプレッシャーにさらされながら一生懸命に作業をしていただき、安定した走行をすることができました。ひとりは初めての参加でしたが、レースの迫力を肌で感じながら、普段の仕事で行っている作業の大切さも改めて感じたと言ってくれました。富士周辺の天候がめまぐるしく変わり、たびたび予定を変更し臨機応変な対応を迫られる忙しいレース週末でしたが、充実した研修を体験してもらうことができました。

第6戦は10月に鈴鹿サーキットにて開催されます。今回の走行で見た良い点と、好結果を持ち帰れなかった反省点の見直しを行い、準備をしてまいります。今大会も多くのご支援、ご声援をいただきありがとうございました。



ドライバー鶴賀のコメント



クラッシュから修復を終え、車両を無傷で次戦に持っていきたかったのですが、自分の未熟さゆえに接触を起こしてしまい、残念ながら順位も大きく下げてしまいました。接触してしまった相手チームの皆さまには大変申し訳なく思っております。ドライでもウェットでもいままでにない手応えを掴んだ週末ですが、ひとえにチームの皆さんの努力のお陰でした。パフォーマンスの高さが分かっているなかでこの結果はチームにも申し訳なく、次こそがっかりさせずレースをまとめられるようにします。今大会も現地まで駆けつけていただいた方々を含め、たくさんのご声援や温かいメッセージをいただきありがとうございました。次戦の鈴鹿も応援いただけますと幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。